

心の輪を広げる体験作文

【小学生区分】優秀作品

千葉市立稲毛第二小学校 三年

しょうがいを知って

中 臺 百々花

「お兄ちゃんは、何でふつうの人とちがうの」

二年生の時、わたしはお母さんに聞きました。お兄ちゃんと目が合わないことに気がついたからです。お母さんは、

「お兄ちゃんはコミュニケーションを取ることが苦手なの。『自閉しよう』というしょうがいなのよ。あと、人よりゆつくりせい長しているのよ。前はしゃべれなかったけれど、少ししゃべれるようになったでしょう。」

と教えてくれました。わたしははじめてしょうがいという意味を知りました。

それは生まれつきで、たまたまお兄ちゃんは自閉しようだったけれど、もしかしたらわたしがいを持つて生まれてきたかもしれないし、だれにでもおこりえることだと知りました。わたしはたまたましょうがいがなく生まれてきました。

わたしはお兄ちゃんと遊んだことがほとんどありません。お兄ちゃんは一人で遊びます。なので、ほかの人が兄弟で遊んでいるのを見て、うらやましいと思ったこともありましたが、今はなれてしまったので何とも思いませんが、相手の気持ちを考えて遊ぶということがよく分からなくなっていました。

わたしは、お兄ちゃんが勝手にわたしの予定を決めることが本当にいやです。

「(何時に) 宿題やる。」

など、すぐ言います。でもそれは、わたしのことを心配しているからだと分かりました。

この前外食した時に、お水がなくてお兄ちゃんが困っていたことがありました。わたしが取ってきてあげると、

「ありがとう」

と言ってくれました。ちょっとうれしくなりました。

おたがいのことを心配したり助け合ったりすることも、いいなと思いました。これからわたしができることであれば助けてあげたいです。

わたしは、ほかのしょうがいについてももっと知りたくなりました。パラリンピックもきょう味が出てきました。今はお兄ちゃんのことを友だちに知られることは少しはずかしいけれど、もっとお兄ちゃんの良さをいつか知ってもらいたいです。